

見ずに信じるか、見て信じるかヨハネ 20:1-10

2025. 5. 4、丘の上 NO. 749

春日部福音自由教会 山田豊

ヨハネの福音書 20 章には、信仰に関して二つの相反することが書かれているように思います。「見て、信じた」ということと、「見ないで信じる」ということです。どちらかというところ、見ないで信じる信仰のほうが立派であると思われるのではないのでしょうか。

イエスが十字架につけられ、息を引き取られてからすぐに十字架から降ろされ、墓にほうむられた様子がヨハネ 19:38-42 に書かれています。安息日があと 3 時間ほどで始まる時であり、ユダヤ人の慣習によってイエスも葬られたのですが、かなり急いでその準備をしていることが想像され、十分に備えができなかったかもしれません。安息日が明けてから、マグダラのマリア始め女性たちは、香油を塗るために朝早く出かけたことが、そのことを物語っています。

彼女たちが見たのは、墓の入り口を閉ざしていた岩が取り除けられ、イエスのご遺体がなくなっていた墓でした。彼女たちは、誰かがイエスのご遺体を取っていったものと思い、弟子たちに報告しました。それを聞いたペテロともう一人の弟子と書かれているヨハネは、急ぎ走って墓に行きました。彼らが見たのは、イエスのご遺体をくるんだ亜麻布(オトニア)がそのまま石の台座に置かれていることと、イエスの顔をぬぐい、頭を覆った布(スダリオ)がまかれてそばに置かれていたことでした。彼らは、残された 2 枚の布を見たのでした。そして悟ったのです、イエスはよみがえられたと(8)。しかしこの時の二人の信仰は、まだ確たるものではなかったでしょう。イエスを信じる信仰のステージが、十字架から復活を信じる信仰に上がった、とでもいえる場面ではなかったかと思います。

その一週間後に、再び姿を現されたイエスは、以前にはいなかったトマスに対し、「わたしを見、触ってみなさい」と言われます。トマスはイエスに触れることなく「私の主、わたしの神」と信仰の告白をしたのでした。その時イエスは「見ないで信じる者は幸いである」と言われたのです。

見ないで信じる信仰は、実は見てから始まるのです。ヨハネも、じっと見たことを伝えたのでした(1 ヨハネ 1:1-2)。今の時代は、イエスを弟子たちが見たように見ることはないでしょう。また先行き不透明な時代です。そうであればこそ、十字架と復活によって残してくださった神の愛を信じることに(1 コリント 13:13)心を置く、見えないものを信じる信仰の幸いを味わうことができるのです。

引用聖句

ヨハネ 3:8 風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

ヘブル 11:8、信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました。

ヘブル 11:13 これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。

創世記 12:3b 地のすべての部族は、あなたによって祝福される。

ヨハネ 20:31 これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

1 ヨハネ 1:1-2 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、自分の目で見たもの、じっと見つめ、自分の手でさわったもの、すなわち、いのちのことはばについて。2 このいのちが現れました。御父とともにあり、私たちに現れたこの永遠のいのちを、私たちは見たので証して、あなたがたに伝えます。

1 コリント 13:13 こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。

聖骸布 十字架につけられたイエス・キリストを埋葬する時に包んだとされる亜麻布。現在は、イタリア、トリノにある大聖堂のチャペルに頑丈に安置されている。広げると、縦 4.41メートル、横 1.13メートル、4X2、つまり8つに折ると、一番上がイエスの顔が出る位置となる。

聖骸布を前にした、教皇フランシスコの言葉 2013年3月30日 TVにて

兄弟姉妹の皆さん、私も聖骸布の前に立って、神様が現代の新しい機会を通して与えてくださったこのテレビ公開を感謝いたします。私たちは、この方法であっても、ただ見るだけでなく、祈りの心で見ます。否、見られるようになります。

(中略)

傷つけられたこの顔は、戦争や暴力に襲われているもっとも弱い人、尊厳がそこなわれている男女の多くの人たちの顔に似ています。……。それでも、聖骸布の顔に大きな平安が漂い、虐待されたこの体から優れた威厳がほとばしっています。それは凧の偉大な力を放ち、私たちに向かって、信用しなさい、希望を失うな、と言ってください。それはすべてに打ち勝つ神の愛の力、復活されたキリストの力です。

(ガエタノ・コンプリ「これが聖骸布」p.94)